

『中学生としてできること』

◇始業式での話は能登半島地震に関することから始めました。当たり前の日常を一瞬のうちに奪ってしまった地震の怖さ・非情さを思い知らされました。多くの方が亡くなり、住む場所を奪われ、日常生活を営むことが困難な日々は現在も続いています。

こんな状況下、思い出されるのが、『レジリエンス』というワードです。東日本大震災の時に、日本人の『レジリエンス』の高さが世界中で絶賛されました。レジリエンスとは、「回復力」「復元力」「耐久力」「再起力」「弾力」と訳されます。そして、「困難な状況であっても回復する精神力」という意味で、心理学の分野で使われるようになったそうです。

家元を離れ、集団避難を決意した中学生、その家族の想いを押し量ることはできませんが、復興を祈って、故郷で家族と共に生活できることを信じて、一步を歩み出したのでしょう。また、実際の動きとして、「自助」から「共助」「公助」の動きも出てきています。正しく『レジリエンス』の高さです。

始業式での話の最後には、「中学生としてできること、今やらなくてはいけないことをじっくりと考えてほしい。」と伝えました。

その回答を推薦入試対象者の面接練習の中で敢えて聞いてみました。

「地震発生後、家族で万が一の避難場所を再確認した。自分より小さい子を助ける側にまわる。」「募金など私たちにできることを考えて実行していきたい。」「いざという時のための準備を見直す。」といった、もう実行したことから、中学生の立場でこれから、そしていざという時にできることの考えを聞くことができました。

当たり前の日常を生きることになり、今回の災害のことへの意識が段々と希薄になっていく。これもやむを得ないことと言えらるかもしれませんが、この時だからできることをしっかりとやっておくこと、今の日常が当たり前と思わず、感謝と自省の気持ちを持ちながら、日々を精一杯過ごすことは継続させたいことです。